

第1回宗像市幼児教育審議会議事録（要点筆記）

日 時：令和元年11月26日（火）18時00分～20時00分

場 所：宗像市役所202会議室

出席者：船越会長、高杉副会長、納富委員、横川委員、井手委員、大和委員、
原田委員、井中委員、萩尾委員、佐藤委員、棚橋委員

事務局：高宮教育長、（子どもグローバル人材育成部長）中野部長、（子ども育成課）
本田課長、（教育政策課）村上指導主事、（子ども育成課）賀来参事、永島係
長、田中、豊村

【会議内容】

1 挨拶

（教育長、会長よりあいさつ）

2 委嘱状の交付

（新規委員へ委嘱状の交付）

3 委員、事務局の紹介

（審議会委員の自己紹介及び事務局職員の紹介）

4 議事録について

作成方法が①全文筆記 ②発言者の発言ごとの要点筆記 ③会議内容の要点筆記
のうち、③の要点筆記で行う旨、確認された。

5 報告事項

事務局から説明（説明内容は省略）

- ・第3期宗像市幼児教育振興プログラムについて【パンフレット】
- ・令和元年度幼児教育事業について【資料2】

6 協議事項

事務局から説明（説明内容は省略）

- ・令和2年度以降の幼児教育事業について【資料1】

【委員からの意見】

<パンフレットについて>

- ・パンフレット「スムーズな小学校入学に向けて」の「スムーズ」という言葉が保護者にとって心の負担にならないか。ここまでできていないといけないのではないかと思わないか。
- ・幼稚園と小学校との違いを子どもに伝える場合に、絵を見ながらだと伝えやすい。
- ・パンフレットの内容を見て、自分の子どもにできないことがあると、つらいと思う人がいるかもしれない。
- ・小学校1年の子どもは、早く生まれる子と遅く生まれる子で、かなり発達の差がある。1年をかけてできるようになると良いと言う気持ちで学校の先

生がいてくれると良い。子どもが自分でやりたいと思う気持ちが高まることが大切である。パンフレットに載っていることは到達目標ではない。

- ・親をあせらせないこと、家庭と学校が協力することが大切である。親を追い詰めないためにもパンフレットの示し方に工夫がいる。努力目標としてめやすを示すことが大切である。いらぬものは削いで、少しゆとりを持って読むというフレーズを入れると良い。表紙の裏の説明部分（留意事項部分）を大きく表示すると良い。

- ・パンフレットに「偏食をなくす」とあるが、アレルギーで食べることができない子もいるので、表現に配慮することが必要。多様な子がいるので、配慮した上で、「楽しく食べることで、いろいろ食べられるようにしていきましょう」等表現に気を付けるよう、考えていただきたい。食を無理強いされることが外傷体験になることがあるので、繊細にとらえて、小学校との接続も含めて考えるとよい。

- ・多様な子どもがいることが、パンフレットに反映されるとよい。

- ・今後は異文化、外国にルーツがある子のことも考えていく必要がある。パンフレットの内容はあんまり詳しくない方が良く、シンプルにしていく必要があるかもしれない。

- ・パンフレットを渡すときの渡し方や心配りが必要。

<保育の日について>

- ・「保育の日」について、保育園も多忙である。また、安全のこと等あるので不安もあると思うので、現場の意見をたくさん聞いて検討してほしい。

<情報交換会について>

- ・今年度の情報交換会はとても良かった。入学後の1年生の担任と話すことで直接的な課題に向き合えて手ごたえもあり、やり方も良かった。子どもが卒園後、小学校生活でつまづいたこと、園で行ってきた対応について知らせる等、効果的に行われたと思う。情報交換会は、内容を焦点化して取り組むと良い。保育の現場をしっかりと見ることにつながる、お互いの教育現場を知ることによって小学校への接続・連携ができると思う。時期については、先生方の必要な情報と時期とのミスマッチがあるようである。お互いを知ることに向き合うことが必要。

- ・学習状況は園によって違う。園は様々のため子どもの経験の違いがある。

<就学サポートノートについて>

- ・就学サポートノートは保護者と一緒に作る、学校の母子手帳のようなものとして位置づけられていて必要な部分を学校に提供するものである。正しい使い方で上手に活用していただけるようになると良い。例を出しながら活用方法をみんなで学ぶ場があると良い。

- ・就学サポートノートの重要なところは、保護者が自分の子どもの権利擁護ができるような力をつけていくことにある。合理的配慮の提供の出発点とし

ての意思表示になる。使い方によって意味があるものだと思う。

- ・就学サポートノートはずっと活用していくものであり、就学サポートノートの中には、子どもが大きくなったらどういうことをしたいか等、親が聞き取って子どもが意思表示するところもある。

- ・幼児教育の流れからすると、子どもがもっと就学サポートノート作りに関与すると良い。子どもが主人公といったスタンスで作られていくと良い。中心にあるのは子どもの権利である。

<職員の研修について>

- ・保育現場は多忙なので、日常の保育に支障が無いよう、研修については慎重に考える必要がある。もっと実践が楽しくなるという研修をする必要がある。福岡教育大附属幼稚園では、11月に公開保育、研究発表会、講評、講演会がある。研修は、一方的に講義を受ける形だけではなく、いろいろな実践を見て、自園の保育との違いを知り、何が学べるのか考え、実践から学ぶことも良いと思う。国公立の幼稚園は、地元園や地域に還元し、貢献することも使命である。先生同士の意見交換、質疑応答を1年に1回行う等、会を設けて、現場の実践を見る中で、子どもの権利がどのように実践化されているか等の研修をしてはどうかと思う。

- ・公開保育を年に2回ほどしている園もある。日常を見てもらい、そこを批評し合いながら研修を行っている。

- ・公開保育等は福岡教育大学と協働して行っており、研修の一つの機会として、また、学びの一つの選択として活用の仕方を検討して、市に貢献することができると良いと思う。保育者を育てる一環として考え協力したい。小学校も研修に参加し、質疑応答、学習会に参加という場を設けることも検討してほしい。

<外国語版パンフレットについて>

- ・ママ・パパハンドブックが多言語でできると良い。まずは、情報が必要である。保育観、子育て観など、国によって違いがあるためそこは練って考えていく必要がある。

<全体的な意見>

- ・メディアからの情報がさまざまあり、家族の大切さや園選びの基準など、保護者に伝えていくことが大切。子どものやりたい気持ちを育て、子どもにとってどういうことが必要か子どもの権利に配慮しながら真剣に考えていく場を作ってもらいたい。

7 その他

特になし